

2023年10月6日
環境社会配慮助言委員会委員長 原嶋 洋平
担当ワーキンググループ主査 二宮 浩輔

モロッコ国ラバト-カサブランカ内陸高速道路建設事業
(協力準備調査(有償))
スコーピング案に対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・ 日時：2023年9月22日(金) 13:59～18:46
- ・ 場所：JICA 本部（2階229会議室）及びオンライン
- ・ ワーキンググループ委員：阿部貴美子委員、石田委員、谷本委員、二宮委員
- ・ 議題：モロッコ国ラバト-カサブランカ内陸高速道路建設事業（協力準備調査（有償））に係るスコーピング案についての助言案作成
- ・ 配付資料：
 - 1) 【事前配布資料】モロッコ国ラバト-カサブランカ内陸高速道路建設事業（協力準備調査（有償））SC案
 - 2) 回答表
- ・ 適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン（2022年1月）

全体会合（第152回委員会）

- ・ 日時：2023年10月6日(金) 14:00～15:25
- ・ 場所：JICA 本部（2階229会議室）及びオンライン

上記の会合にて助言を確定した。

助言

代替案検討

1. ADM（モロッコ高速道路公団）の代替案検討結果について可能な範囲で確認を行い、本調査の調査団が実施した代替案検討の理由・根拠を DFR に記述すること。

スコーピングマトリクス

2. 住民の水利用について、上水の整備状況を調べ、事業によって水利用状況に負の影響が生じる場合には必要に応じて緩和策を検討して、その結果を DFR に記述すること。また、水源の利用状況については、ジェンダーの観点を踏まえて確認し、女性の利用状況への負の影響が想定される場合には必要に応じて緩和策を検討して、その結果を DFR に記述すること。

環境配慮

3. 本事業の実施に伴う伐採対象の樹木の種類や規模、事業地周辺の動物や魚類などについて、今後の調査によって明らかになった内容を DFR に記述すること。
4. 過去数年間分の降雨量データが示す傾向が判断基準となっているが、雨季・乾季の端境期とも呼べる月々において実施が予定されている調査は両方の季節をカバーする調査と言えるかは疑問である。採用した降雨量データの再検討を通して調査時期の妥当性の確認を行うこと。さらに、調査時期の変更がなされない場合には予定されている調査分野（汚染対策、自然環境、社会環境、その他）における専門家への聞き取りや文献調査を通して雨季・乾季それぞれの時期におけるベースラインを確認すること。
5. 農牧畜業における伝統的な利用を含めた水資源の利用と管理について調査し、必要に応じて緩和策を検討し DFR に記述すること。

社会配慮

6. 被影響住民の女性の社会経済状況について調査し、必要に応じて緩和策を検討して DFR に記述すること。

ステークホルダー協議・情報公開

7. 行政区ごと、コミュニティごと、属性ごとなど、どのような方法・プロセスでステークホルダーミーティングを計画したのか、その開催結果とともに DFR に記述すること。
8. 十分な情報公開と参加の機会の確保を含む苦情処理メカニズムを計画し、DFR に記述すること。

その他

9. 住民の健康状態については、国レベルの健康の基本的な指標（男女別出生時平均余命、乳児死亡率、5歳未満児死亡率、妊産婦死亡率）等を示した上、今後の調査結果から住

民の健康および可能な範囲で保健サービスについて情報収集結果を DFR に記述すること。

以 上